

# 第 1 期 pES club シナリオ 3

平成 14 年 12 月 30 日  
虎の門病院分院 内科総合診療科  
南郷 栄秀  
sulzburger@amy.hi-ho.ne.jp

あなたは 300 床の中規模病院の初診外来を担当しています。

今年もそろそろインフルエンザの季節，と思っているところに風波嫌太男さん，28 歳男性が発熱，咳嗽を主訴にやってきました。話を聞くと，1 週間前から何となくだるい感じがするなと思ったら，一昨日の晩から急に 38.3 の発熱があり，今朝から咳嗽，喀痰，咽頭痛，鼻汁がでてきました。全身の関節痛や筋肉痛，嘔気，下痢，腹痛はなく，ときどき頭が重い感じがするそうです。咽頭は発赤しており，扁桃腫大は軽度，頸部表在リンパ節は触知せず，胸部聴診上肺雑音はありませんでした。

あなたは，インフルエンザなら発症初期なので，ノイラミニダーゼ阻害剤であるタミフルが使用できると思いました。

風波「カゼでしょうか？」

医師「インフルエンザだと思います。普通のカゼだと，効く薬というのはあまりないのですが，インフルエンザには特效薬があります。早速使いましょうか？」

風波「インフルエンザじゃないただのカゼという可能性もあるんですか？」

医師「その可能性は否定できません」

風波「インフルエンザじゃなくても，その薬は効きますか？」

医師「インフルエンザじゃないと，薬の効果はありません」

風波「そしたら，無駄に薬を飲むことになりますね」

医師「そうです。無駄になるだけじゃなくて，その薬は結構高いんですよ」

風波「え？そうなんですか？そしたら，インフルエンザかどうか分かんないといけないじゃないですか」

医師「インフルエンザかどうか，簡単に分かる検査があります」

風波「どんな検査ですか？」

医師「綿棒を鼻の穴に突っ込んで，そこにインフルエンザがいるかどうかという反応を見る検査です」

風波「それで分かるんですか？」

医師「分かるはずですが，確か分からない場合もあったような．．．」

あなたは，この患者では，インフルエンザに間違いないと判断し，タミフルを飲ませることを説得して帰しました。しかし，その後少し不安に思い，インフルエンザの診断能について調べてみることにしました。